

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0173100355		
法人名	有限会社 栄友		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業グループホームゆう		
所在地	上川郡東川町北町4丁目9-26 (電話) 0166-82-5600		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年3月11日	評価確定日	平成20年5月7日

【情報提供票より】(20年2月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 16年9月26日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13人, 非常勤 3人, 常勤換算10.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	15,000~19,500 円	
敷金	有 (円)	<u>無</u>		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	316 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,066 円	

(4) 利用者の概要(2月12日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2	要介護2	5		
要介護3	6	要介護4	4		
要介護5	5	要支援2	0		
年齢	平均 81.6歳	最低	59歳	最高	102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東川町立診療所・旭川厚生病院・愛生会病院・東川歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、「認知症高齢者が、その人らしい生活を送れるような場を提供したい」という施設長の熱い思いにより、平成16年に開設された。また、事業所からは広大な大雪山が眺められ、1000坪の敷地内には花畑・野菜畑・遊歩道などが設けられるなど、恵まれた環境に立地している。職員は、理念にも含まれている「友・悠・遊・優」を大切に熱意を持って日々のケアサービスを実践し、利用者は落ち着いてゆったりと生活している。今後も、利用者とその人らしく穏やかに生活することが期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題であった「馴染みのある環境づくり」や、「研修に参加できる体制作り」の項目について、職員間で話し合い改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価・外部評価の意義を理解しており、職員間で話し合い自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者本人・家族・地域住民・民生委員・行政担当者等を構成員とし、2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。会議では、事業所の運営状況等について報告し、意見交換を行っている。また、そこで出た意見を事業所の運営に反映させるとともに更なる質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や電話連絡をした際に、意見・要望等を聞いている。また、意見等を受けた場合は、毎日の申し送り時に伝達し、全職員で情報を共有している。さらに、運営推進会議において協議し、日々のケアサービスに反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、祭りや歌謡ショーなどの地域の行事や役場主催の映画会等に参加し、地域との交流を図っている。また、事業所発行の新聞を地域に配布したり、事業所の行事へ近隣住民の参加を呼びかけるなど、地域と密に連携を取れるよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域において利用者がその人らしく暮らし、「友・悠・遊・優として生きる」事を盛り込んだ事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会等において、職員の理念の浸透を図り、日々その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りや映画会等の地域の行事に、積極的に参加している。また、事業所新聞を地域に配布したり、近隣住民に事業所行事への参加を呼びかけるなど、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価・外部評価の意義を理解しており、話し合いながら自己評価に取り組んでいる。また、改善項目を日々のケアサービスに反映させ、更なる質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者本人・家族・地域住民・民生委員・行政担当者等を構成員とし、2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。会議では事業所の運営状況等を報告し、意見交換を行っている。また、会議の内容についてを事業所内に掲示し、情報の共有を図るとともに日々のケアサービスに反映させるよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者や民生委員等と日頃から連絡を取っており、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、便りを送付し、利用者の暮らしぶりを家族に伝えるとともに、領収書の写しを添えて、金銭出納についての内容を明確にしている。また、年に1度、事業所新聞を発行し、事業所全体の様子を家族に伝え、また、必要に応じて電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に職員は声かけをし、家族から意見・要望等を聞いている。また、意見等を受けた場合は申し送り時に話し合い、情報を共有するとともに、運営推進会議において協議し、日々のケアサービスに反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等があった場合は、利用者本人・家族に説明し、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。	○	今後も、利用者と職員との馴染みの関係を大切にし、職員が継続して勤務できるよう検討することが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、内部研修を実施するとともに、上川支庁主催の勉強会や、グループホームブロック研修会等の外部研修に参加し、職員の資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加した際に同業者と交流し、ともにサービスの質の向上に努めている。	○	今後も、研修会等に積極的に参加し、同業者と意見交換や情報交換を行うとともに、他事業所とのネットワーク作りに取り組み、更なるケアサービスの質の向上に努めることが期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から情報を収集し、一人ひとりの希望に応じた支援となるよう努めている。また、必要に応じて、事前にデイサービスの利用を勧めるなど、利用者が事業所の雰囲気馴染んでからの入居となるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に生活する中で、一人ひとりの思いを共有し、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努め、その人らしい生活となるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者本人の意向や状況を把握し、申し送り時に職員間で確認し、家族の意見や要望を採り入れながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、定期的に介護計画の見直しを行っている。また、利用者の状態に変化があった場合は、本人・家族の意向を確認し、職員間で協議し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じてデイサービスを利用してからの入居とするなど、事業所の多機能性を活かして柔軟な支援を実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人・家族の希望に応じて、かかりつけ医や協力医療機関への受診支援を行っている。また、2名配置している常勤看護師を中心として適切な医療を受けられるようカンファレンスを行い、支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期に向けた対応について、方針を定めており、家族に説明し同意を得ている。また、必要に応じてカンファレンスを行い、本人・家族の意向を確認し、全員で情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の自尊心を大切に声かけや対応を心がけている。また、個人情報の取り扱いに関して定めており、適切に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のおやつ作り・ラジオ体操・ゲームへの参加など、利用者の希望に応じて支援し、その人らしい生活となるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を考慮した献立を作成し、利用者の力に応じて食事の準備・調理・後片付け等を、職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や回数など、利用者の希望に応じた入浴支援を行っている。また、現在は夜間入浴を希望する利用者はいないが、今後対応できるよう検討中である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生日会・ひな祭り・花見・紅葉狩りなどの行事を定期的実施し、楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1000坪ある事業所の敷地内には花畑・野菜畑・遊歩道等が設けられている。また、流しそうめんや焼肉を楽しむ機会をつくるなど、利用者が日常的に外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、職員の見守りと連携により、利用者が自由に外出できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら、夜間も想定した避難訓練を年に4回実施している。また、防火自主チェック表に毎日記録するとともに、全職員が救急救命講習を受講するなど、緊急時に備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日個別に記録しており、職員間で情報を共有している。また、栄養士が献立を作成し、一人ひとりの状態に応じて栄養バランスを確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内は高い天井と大きい窓により、全体的に明るく開放的である。また、備えつけの家具等により落ち着いた雰囲気を感じ、利用者が居心地良く過ごせるような空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具・仏壇・神棚等が持ち込まれており、本人が安心して居心地良く過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。